

2014年度自己点検・評価報告書(シート)

【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	経営戦略研究科後期課程
大項目	4 教育研究組織 (研究科)
中項目	
小項目	4.0.1 大学の学部・学科・研究科・専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか。
要素	教育研究組織の編制原理 理念・目的との適合性 学術の進展や社会の要請との適合性 (KG1)研究活動の状況
小項目	4.0.2 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 博士学位を有する研究者教員と経験豊富な実務家教員の融合による研究指導体制の確立	→研究指導教員の博士学位取得率と研究指導補助教員の実務活動における実績	B	B	A	A	A
2. 教育研究組織の適切性に関して、研究科教員による、意見交換会(内部評価委員会)を開催する	→意見交換会(内部評価)の開催回数	B	B	B	B	B
		☆				
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 研究科指導教員の大幅増員を行った。その際、博士学位取得を指導教員任用の要件とした。また指導補佐教員の任用においては、学術上の業績と実務上の業績ともに要件として審査している。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 研究指導教員は全員が博士学位取得者である。また研究指導補佐教員任用の際も、業績を確認している。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 今後も博士学位取得者を指導教員任用の要件とし、指導補佐教員任用の際には業績を審査する。	☆
		その他	☆

目標2	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 教育研究組織の適切性について、研究科委員会による自己評価点検の際に意見交換を行っている。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 教育研究組織の適切性について議論するための意見交換会は開催しなかったが、研究科委員会(教授会)で適宜議論しているため、適切性は確認できている。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 今後は、研究科委員会(教授会)に限らず、必要に応じて意見交換会を開催する。	☆
		その他	☆
備考			☆